

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	放課後等デイサービス こだま		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 1日	～	令和 7年 12月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 1日	～	令和 8年 1月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 1月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>【プログラムと視覚支援】</p> <p>プログラムの豊富さ。平日のプログラムは固定されているが、内容は毎回違うものを準備している。あらかじめ予定が決まっているので、つもりがしやすい。プログラムは、必ず集団で活動している。視覚支援にも力を入れており、児童が見通しを持って過ごすことができる環境が整っている。</p>	<p>ボックスや工程表を用いて、必要に応じて、子どもに分かりやすく説明している。個別に必要なボックスについても、日々ブラッシュアップしており、情報が多すぎず、的確に伝わるよう工夫している。児童が主体的に参加できるように、役割や手順をわかりやすく提示している。おでかけについては、遊ぶだけではなく、見る、学ぶ、作る、食べるなど、様々な経験ができるように企画している。</p>	<p>子どもたちの理解度や興味に応じて内容を調整し、より成功体験につながる支援を検討していく。日々、情報収集をする。視覚支援については、継続的に取り組んでいく中で、必要に応じてブラッシュアップを行いより良いものを作る。大きく変更することを避け、子どもたちが使い慣れたものを大切にしていく。</p>
2	<p>【職員の配置】</p> <p>職員の配置人数の多さ。保育士、教諭免許を取得している職員も多い。学校や児童館などの教育現場で経験を積んだ職員や、子育てを経験した職員も多数。子育てに悩む保護者からの相談や悩みを聞き取り、解決に向けて対応できる。</p>	<p>「こうしないといけない。」ではなく、その時の子どもの状況に合わせて、チームで支援を行っている。できる人が、できる時に、できることをする。『チームこだま』を意識し、スタッフそれぞれが得意な部分を活かしつつ、お互いを思いやりサポートするよう心掛けている。</p>	<p>みんなが一定のレベルのことができるよう、個々のスキル向上を目指す。スタッフそれぞれの個性も大切に、得意な部分を活かしつつ、日々学びを重ねていく。個々の成長がチームの成長に繋がっていくようにしていく。専門的な知識を取り入れられるような研修に積極的に参加していく。</p>
3	<p>【事業所の雰囲気】</p> <p>子どもたちが安心して過ごすことができる環境を設定しており、第2のお家のようなアットホームな雰囲気。児童ひとりひとりに丁寧に寄り添い、過ごしやすい環境作りができています。</p>	<p>ひとりひとりの個性を大切にしている。職員は、毎日元気に児童を迎え入れている。児童が発する言葉やサインを見逃さないように、しっかり見守るようにしている。職員と児童の距離感が良い意味で近く、日常の関りの中で、信頼関係を構築している。</p>	<p>こだまが第2のお家のような居場所となるよう、温かい雰囲気づくりを日々大切にする。子どもたちが安心して過ごせる居場所になるように、子どもたちひとりひとりをしっかり受け止め、日々の様子や発言などに注視し、気になる部分は保護者とも連携する。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>個々の知識、経験、能力に差があるため、対応できる人に頼ってしまう。自己判断能力や危機管理意識が低く、個々の判断が求められる場面で対応が難しいことがある。</p>	<p>個々の能力に差があるため、咄嗟の判断が難しく、どうしてもできる職員に頼ってしまうところがある。苦手なことや、対応が難しそうな場面に自ら向かっていない。誰かに任せれば良いという気持ちになりがち。失敗したくないという消極的な気持ち。</p>	<p>積極的な研修への参加。事業所内での勉強会などの実施。知識は自らが積極的に獲得するようにしていく。失敗を恐れず、チャレンジする気持ちを持つように心掛ける。何事も経験が大切。経験豊富な職員に相談したり、フォローしてもらいながら、経験値を上げていく。</p>
2	<p>情報共有がうまくできていない。</p>	<p>個々の発信力の低さ、コミュニケーション能力の低さにより、自分しか知らない情報を、他の職員とうまく共有できていないことがある。聞かれるまで話さない。支援時に起こった出来事など、全ての職員に伝わり切っていない部分がある。</p>	<p>業務日誌に、終礼で出た内容(その日起こった出来事や連携事項)を記入している。出勤時に業務日誌に必ず目を通すようにして、連携事項をそれぞれが確認する。LINEにて、日々連携が必要なことや、共有が必要な情報はアップするようにする。特に非常勤のスタッフには、連携を大切にしていく。知らなかったでは済まされないこともある。伝えてもらうまで待つという受け身ではなく、積極的に情報を獲得できるよう心掛けていく。分からないことをそのままにしない。</p>
3	<p>個別に対応ができる個室がない。</p>	<p>児童に使用してもらおうスペースは、訓練室と相談室2部屋あるが、訓練室はたくさんの児童が自由に過ごす場所であり、相談室は来客がない時は宿題や着替えの際に使用している。一人で過ごしたい時や、個別に支援が必要な場合(クールダウンなども含め)使えるスペースがない。</p>	<p>職員室を活用したり、クールダウンの場合は送迎車を使うことも選択肢のひとつにしていく。パーティションで部屋を分けて使っても良いが、倒れてしまうこともあるので、注意が必要。</p>

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		放課後等デイサービス こだま		公表日		令和 8年 2月 4日		利用児童数		33 名		回収数		27 名	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応							
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	25		1	1									
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	27												
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	26			1									
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	26			1									
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	26			1	・子どもの特性や気持ちに寄り添った支援をしていただき感謝です。								
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	27												
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	27												
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	27												
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	27				・こどもの小さな成長も一緒によろこんでくださりありがとうございます。								
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	27				・月齢の小さな子どもたちの関わりの機会もあり、良い刺激になっています。								
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	10	5	5	7									
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27				・保護者の気持ちにもよりそって下さる姿勢に支えにもなっています。								
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	27												
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	8	1	3									
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	27				・日々の様子をLINEして下さり安心してます。 ・								
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	26	1			・温かい支援に感謝しています。								
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25			2									
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	9	5	4	・きょうだいの交流の場があれば今後のためになると思います。今年実施して下さった懇親日は参加できず申し訳ないです。ぜひ今後も続けてほしいです。 ・次回、機会があれば参加してみたいです。(卒業後の連絡、情報交換など、余剰のすし方など) ・今後の懇親日には参加させていただきます。 ・精に望みます。								
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	26												
	20	こどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	27												
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	27												
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25	1		1									
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23			4									
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	25			2									
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25			2									
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	26				・このような状況になったことがないので回答できません。								
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	27				・いつもありがとうございます。あたりまえのように安心して通っております。 ・良い先生ばかりで親子共々ありがたく楽しみに通所させていただいております！								
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	27												
	29	事業所の支援に満足していますか。	27				・今後ともよろしくお願致します。								

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス こだま		公表日		令和 8年 2月 4日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	2	訓練室は十分な広さだとは言えないが、部屋を間仕切り、机や物の配置を工夫して、なるべく快適に通してもらえよう配慮している。人数が多い利用日は、部屋で活動するチームと、外で活動するチームに分けてプログラムを行うようにしている。	もう少しスペースがほしいところだが、広くすることは難しい。限られたスペースで工夫するしかない。物の配置などを工夫して、なるべく広く使えるようにする。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12		2チームに分かれて活動するため、それぞれのチームに最低3名以上職員を配置している。職員の配置数は少ない日でも5~6名、多い時は8名配置しており、充分かと考える。支援学校のお迎えについては、スクールバスで下校する児童と学校お迎えの児童に分けて、分散させて職員の負担を軽減する。	開所中は全職員が児童に対応するため、帰りの送迎出発後に提供記録(連絡帳)の作成をしている。年々支援学校の児童数が増え、学校お迎え時に添乗をつけたいが、他の学校お迎えも同時刻に複数あり難しい。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12		おもちゃの棚、荷物置き場と子どもたちにわかりやすく設置されている。視覚支援を重視しており、環境は構造化できている。スケジュールや、その日利用の児童名、職員名、帰りの送迎車、送迎順など子どもたちが自分で見て確認できるように掲示している。ベグスの活用(イラストで提示)。子どもたちの成長や様子に合わせて、設備の配置を変えている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		毎日掃除しており、清潔を保っている。定期的に床のモップがけをしている。	大通りに近いため、床が汚れがち。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	2	1人になれる空間、クールダウンできる場所があり、自由に出入りできる。パニック状態の時や、他害行為がある時は別室や送迎車内、屋外へ移動させる。	個別の部屋の確保は状況により、難しい場合がある。宿題や制服からの着替えなどで使用することがあるため。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12		常勤職員を中心に、午前中に会議を実施している。時間に余裕がある時は、午後会議を行いなるべく多くの職員が参加できるようにしていく。	全職員に会議に参加してほしいが、非常勤の職員は勤務時間的に難しい。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		毎年年末に実施している。モニタリング時にも、聞き取りをしている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		毎日、始めと終わりにミーティングを行っている。その日起こったことや、気になることなどを出し合い、対応や改善点を考えたり、意見を出し合う場になっている。	ミーティングでの伝達がうまくできていない。個々のコミュニケーション力の差。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	3	運営指導にて指摘された改善点については、すぐに対応している。	第三者評価は受けていないが、市の取り組みに申し込みをしている。今後、援助を受ける予定。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	12		毎月1回社内研修を行っている。専門的で必要な知識を取り入れるため、積極的に社外での研修に参加するように勧めている。個別にも、自由に学べるような環境を整えている。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		子どもたちができそうなプログラムを吟味し、適切な活動が構成されている。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	12		アセスメントについては、それぞれ担当の職員が作成している。作成したアセスメントや、モニタリングの情報を基に計画を作成している。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		支援計画作成のために随時会議を開き、モニタリング、アセスメントの情報を基に課題を分析し、それぞれに必要な支援目標を設定している。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		新規利用者の情報を前もって共有している。利用日ごとに、目標に対する評価を毎回行っている。利用児童全員の支援目標を一覧にしている。個別のファイルについても、常時閲覧できるようにしている。	全員の支援目標を一覧にして、いつでも閲覧できるようにしているが、全職員がすべてを把握して支援が行えているとはいえない。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12		アセスメントシートを、昨年度新たに作成した。知っておきたい情報を職員からも聞き取り、簡潔で分かりやすいシートにまとめた。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12		個々に必要な支援を設定し、個別支援計画書に記載している。自立に向けた取り組みも積極的に行っている。地域との連携や、近くの放デイとも交流を行い、横のつながりも大切にしている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12		工作やクッキング、おでかけなど幅広く実施している。工作、クッキング、おでかけ、イベントなど、それぞれに立案してもらい、決定はチームで行う。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		イベント行事など積極的に取り入れている。毎日利用されても、違うプログラムに参加できるよう工夫している。内容が被らないように、なるべく新しい内容にするよう心掛けている。工作は家でできるものを中心に作成、クッキングは簡単に家でできるようなものを立案している。職員が分担してプログラムを担当している。	工夫はしているが、平日のプログラムは固定している。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	12		それぞれに的確な計画が作成され、それに基づく支援が行われている。集団での活動プログラムと、個別に必要なプログラムを用意している。	会議に参加できていない職員(非常勤)もいるので、作成については分からないこともある。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12		その日の支援の内容はもちろん、気になる子どもの様子や、配慮する点などを開所前に事前に連携している。			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12		毎日ミーティングを行い振り返りを行っている。その日のミーティング内容を、業務日誌に記入しており、休みの職員も後日確認できるようにしている。	情報を発信する職員と、発信しない職員がいる。全員が意見を出し合い、話し合うことができていないことがある。コミュニケーション能力の低さ。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12		業務日誌に、終礼で出た内容を記録しており、休みの職員も情報が得られるように工夫している。	業務日誌の確認ができていない職員がいる。誰かから聞くまで放置してしまっている。		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12		6か月ごとに行っている。			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	12					
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	12		ベグス等を使用している。発語のない子どもには、ツールを使って自ら選択できるように支援している。おやつをたくさん種類の中から選んでもらっている。			

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12		管理者・児童発達支援管理責任者が参画している。会議の内容は、全職員と共有している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12		地域の関係機関が集まる会議にも参画している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	12		常に学校とも連携、情報共有し共通理解のもと支援するよう努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11	1	書類など共有して事前に確認するようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	12			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	12		以前一度受けたことがあるが、今後も積極的に受けていきたい。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	11	1	児童館とは昨年行事への案内をいただき、交流ができたが、今年度は機会がなかった。3月に、同じ西京区と右京区の放デイと交流を兼ねて合同企画を予定している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	2	京都市西部障がい者地域自立支援協議会 児童部会に所属。令和元年～4年まで運営委員として活動。現在はこども2ndが担当している。依頼があれば、運営委員を受けると予定。	自立支援協議会については、常勤職員が参加しており、非常勤の職員は参加できていない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11		面談や、送迎時に保護者と連携を行っている。その日起こったことはもちろん、気になることは必ず伝えるようにしている。発達の状態や課題について、伝えるようにしている。	保護者への伝達が不十分などがある。個々のコミュニケーション能力に差がある。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	3	イベントや行事についても、保護者にも案内し参加してもらっている。		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11		契約時に、丁寧な説明を行っており、不明な点についてはその都度答えるようにしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12		常に保護者と情報を共有するようにしており、送迎時やLINE、電話を使用して密に連絡を取り合っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	12			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		面談や、送迎時に保護者から子育ての悩みなどを聞き取り、歩調を合わせ、同じ方向や方法で支援していくよう努めている。発達の状態や課題について、伝えるようにしている。LINEにて、連絡、相談を受けている。（営業時間外も必要に応じて）	職員個々の経験値の差があり、助言が難しい場合がある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	2	昨年末には、こども参観日を企画し、1週間こどもを開放した。保護者に児童の様子をリアルタイムで見てもらえる良い機会となった。職員も良い緊張感の中支援が行っていた。保護者同士の交流もできていた。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		保護者とはLINEで繋がっており、常に連絡が取れるようにしている。何かあれば、気軽に連絡、相談していただける体制を整えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12		InstagramとHPのブログで活動の様子（写真・コメント）をなるべく毎日発信するようにしており、好評を得ている。写真付きのプログラムカレンダーを配信。撮りためた写真を、月ごとに保護者に送信。広報誌（年3回発行）。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12			
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11	1	マンションの住人の方と一緒に避難訓練を行っている。月1回 こども療育ダンスを開催。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12		避難訓練は、年2回以上（風水害・地震・火災）実施している。消火訓練についても年2回実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12		年1回、会社全体の研修に参加。事業所としても、非常災害時に備え、災害を想定した訓練、備蓄品の確認などを行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		契約時に、確認を行っている。保護者には、サポートブックの作成をお願いし、過去の情報も可能な限りいただいている。いただいた情報は、職員全員で共有している。	情報を自ら獲得しようとする職員と、そうでない職員がいる。情報は教えてもらうまで待つのではなく、積極的に自らが獲得していく必要がある。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	1	現在アレルギー対応が必要な児童はいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12		安全計画に沿って、訓練や研修を行っている。はじまりの会のSSTの時間を使って、児童にも必要なスキルを身に付けてもらっている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12		面談時に安全計画を用いて説明している。安全計画については、保護者も自由に閲覧できるように、玄関にファイリングして保管している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12		ヒヤリハットを共有し、同じようなことや、大きな事故に繋がるようなことが起こらないように話し合い対応している。自由に閲覧できるように、ファイリングして保管している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		年1回、社内研修にて研修を実施している。事業所独自で、年末に全職員を対象にアンケートを実施し、その結果を基に個別面談を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	12		現在対象児童はいない。		